



Photo by
Hiroshi Takasugi



“ ～秋に向けて～ ”

理事長 高杉 洋史

テレビやラジオははじめ連日のニュースは新型コロナウイルスの事か熱中症のことで始まる毎日です。幼稚園も今年度異例づくめの展開で、何とか参観ファミリーデーで、子どもたちの歌声を聞くことができました。今の状況が2学期や3学期でも続くと、子どもたちの幼稚園の様子を保護者の皆様に見てもらう機会が減ってしまいますので、何とか打つ手はないかと考え、私と園長でyoutubeやZoomに挑戦しています。ドリカムタイムの様子始め、折々の活動はホームページに静止画と文章でアップしてきましたが、そろそろ動画の時代なんですね。ライブ発信までできる環境が整ってきました。吉塚ゆりの樹幼稚園と玄海ゆりの樹幼稚園の間の会議も、建築会議のような個人情報がかかわらないことはZoomである程度のことではできるようになりました。お盆休みも顔を合わせた人は十人に達しません。朝はカメラをもって花壇の淵に座り、ダンゴムシやアリを映して、youtubeにアップする練習をしました。

<https://youtu.be/kefHZPme75w> (「だんごむしのうしろすがた」チャンネル名は「ここがふしぎな幼児教育」)です。幼稚園の先生は思考が園児と似ていますので、どうして? とかなんで? とか 素直に疑問が湧いてきます。バッタとアリとセミの歩き方はどうちがうのか? 口の形はどうなのか? 空の飛びかたはどうちがうのか? いろんな疑問を持ちながらカメラを構えると偶然びっくりする場面に出くわします。子どもたちに見せるかどうかは保護者の皆様のご判断ですが、カマキリの共食いの場面に出くわしました。

単純にカマキリを映していたら、突然緊張した雰囲気になり、思いもよらない展開になりました。(<https://youtu.be/96tLPNDN-L8>)

タイトル 「カマキリ 大人のチェックが必要」チャンネル名は 「ここがふしぎな幼児教育」)ほかにいろいろなありますからお子様と楽しんでいただけると嬉しいです。大人も心が疲れる時があるものです。そんな時は玄海ゆりの樹幼稚園のすぐそばの海岸から日没を映した波と波の音はいかがでしょう。

(https://youtu.be/D8y-_aQsQF0) タイトル 「大島に沈む夕日」チャンネル名 「自然の音」)ノートパソコンにウェブカメラをつないでライブ参観日の練習までは何とかできました。運動会もおじいちゃんおばあちゃんにはライブ配信で見てもらうことになるかもしれません。あとはセキュリティチェックの勉強です。子どもたちに何とか例年と同じような量の体験を積んでもらえるよう、知恵を絞る毎日です。





「足るを知り、当たり前のことを当たり前に行うことに感謝して！」

—置かれた場所で咲きなさい—

当たり前のことを当たり前に行うことにありがとう

辛い、苦しい体験こそ、学びがあり、自己成長できることにありがとう

すべてに感謝と感動と愛の心、最後まで自分を信じている自分自身を信じて

今やりたいことをやる範囲でやるだけ楽しんでやっていきましょう！・・・成長は行動変化

園長 高杉美稚子

「この子がいたから、親になれた

この子がいるから、教師をさせていただく 何事にも感謝する心」

私達はこれを忘れてはならないでしょう。



そして、今ここに生まれてきてくれた「命」があることに、自分が「今」生きていることに感謝して・・・この気持ちを大切に、すべての事、すべての人に感謝しながら、子ども達のために、保護者の方、そして、職員と共に、このコロナ禍の中であっても、私たちの努力と知恵で感動のある日々になりたいと考えております。

生きているだけで丸儲け、死んで花実が咲くものか・・・なんて言葉が昔はありました。そして、生きていけば、辛いことも、苦しいこともあります。それが生きている証ですから・・・。

同時に、子ども達は、人間は辛いこと、苦しい体験、つまりは自分が失敗したと感じる、駄目だなあと感じる体験を通して初めて育つのです。その失敗は、決して、周りから見たら失敗ではないのに、自分がそう感じたら、それはその人にとっての失敗体験になるから、周りがどんなに慰めても本人にとっては辛いですね。

本当は何も心配することはないのです。失敗しない人はチャレンジしていないだけですから。

失敗したら、落ち込むのではなく、そこから何を考え、学び行動変化→成長したかが大切なのです。

迷いながらも、勇気を持って挑戦する事は、人を成長させます。

行動を恐れ、結果を恐れ、何もしないのは、停滞退化でしかありません。人が辛くても、呼吸をし、生きているということは、何の成長進歩もない人生を過ごすためではありません。生きることは、喜びであり、感動であり、出逢いです。生きることは成長であり、行動変化 エクスチェンジ、進化することです。

どのように行動変化するか、それは、ゆりの樹スピリッツ 10Eです。

感覚と感情に気づき、振り回されず、自己コントロールすること エモーション、

自分の思いを人に伝え、十分に発揮すること エンターテインメント

辛い、苦しい体験すらも楽しむこと エンジョイ

自分らしく精一杯最後まであきらめないこと エンパワメント

楽しむプロセスを通して、親も子どもも教師も、心を一にすることを大切にしながら、

「失敗に感謝し、失敗に学ぶ」姿勢を忘れずに、そのことを大切に、自分で選択し、決めた事

個別性と共感の自立の循環の教育 エデュケーションを進めてまいりましょう。

そして結果として素晴らしい、エクセレントな毎日になるように。



今の自分が60点といつも思っている人は周りから見ても100点になっていても、その自分を60点と感じてしまうのです。それではアリジゴクに陥ってしまいます。だから、結果が成功であろうがなかろうが、自分が頑張ったプロセスを自分で自分に100点を付けてあげるのです。





プロセスを頑張っている我が子に１００点をつけるのです。失敗が見つかったら「うまくいかない方法が一つ見つかった」と喜ぶのです。それがアリジゴクからの脱出方法です。



いつまでも６０点だと思っていたら、焦るばかりで、パニックになって、周りが見えず、何も得ることはできないのです。とりあえず、６０点の自分を抱きしめ、失敗しても諦めなかった今の自分を、諦めたら、手放せた自分も両方、頭ではなく体ごと１００点と思いこむのです。行動変化です。そうすれば、一呼吸置いて焦らず、焦ってもパニックにならず、謙虚に、足りない部分を探せるからです。

それが、**小さな幸せを見つけるエネルギー**となります。

人生を幸せに生き抜く力となります。その積み重ね、失敗と思っていたことこそが成功体験となり、自信につながっていきます。

とはいえ、自信があるという人は、本当にこの世にいるのかと私は思います。心から自信たっぷりです、という人がいるのであれば、会ってみたいです。自信たっぷりに見える人は、そう見せていないと、不安なのかもしれません。傲慢で、強がっている人は、気が小さく、気が弱いなのかもしれません。**「究極の陽は陰、究極の陰は陽」**だと私は思っています。だから、自信がなくて、不安で当たり前なのです。生きているのですから・・・陽でもなく陰でもなく「中庸」普通が一番いいのです。普通に、今生きていることに感謝しましょう。

一粒の花の種があります。机の上において眺めても花は咲きません。適宜な時期に、適宜な土の深さに埋め、適宜な水と光に包まれて初めて花は咲きます。同じように埋めても、同じようには咲かないかもしれないし、枯れてしまうかもしれません。自分だけどんなに努力しても、それだけでは結果は生まれません。どうしても周囲の協力が必要です。人間は社会的動物です。一人では生きてはいけません。

今、こうして生きているのですら、人の支えと不思議な縁で生かされているのですから。人に迷惑をかけないで生きている人なんていません。それが分かれば謙虚に、そしてすべてのことに感謝して生きられます。周りの人に感謝できない人は、悲しい人生です。

なぜなら、人と人とのつながりが持てないからです。社会的動物、真の人間になるためには、人と繋がること、人を支え、人に支えられて、人を頼って、人に頼られて本当に頑張ることが出来るのです。

だから、まずは、自分から感謝して、感謝されて、自分から愛して、愛されて本当の人に育っていくことが大切です。

その源は『**ありがとう・ごめんなさい、わからないから教えて、助けて**』の**気持ちを伝えることーゆりの樹の目指す人間像ー**から始まるのです。



人生、長い。そして、過ぎてしまえば、愛おしいくらい、悲しいくらい短い。もう一度したくたってできないのです。過ぎてしまえば、今というときは何歳になっても、一番輝いている・・・こんなに輝いていた時間はないのですよ。**「いくつになっても、今が一番人生で若いだから・・・」**

だから、苦しくても、辛くても、時に情けなくても、そこから学んで、成長する自分を自分が一番喜んで、楽しんで、自分育て、自己成長を自分が楽しめば、何が起ころうとも、自分が一番生き生きとしてくるのです。

その自分の姿を見て、何より自分が、一番幸福になれるのです。そして周りを明るく元気にもするのです。だから、ムリせず、ムラなく、ムダなく、そして時にムリすることがあってもいい、ムラ、ムダがあってもいいと、自分で自分を許す心も持ちながら、楽しんで、感謝して、感動して、自分の人生に**「心の原風景ー感動と思い出」**を一つでも多く残せるように、頑張りましょう。楽しんで生きる人生、苦しんで生きる人生。どちらも同じ時間、空間です。





冒頭に 一置かれた場所で咲きなさい—

という言葉を書きました。これは前に読んだ元ノートルダム清心学園理事長『渡辺和子先生』の言葉です。

「置かれた場所こそが、いまのあなたを幸せにする居場所なのです。

置かれたところで自分らしく生きていけば、必ず、見守って、助けてくれる人がいる…

そのことが信じられて、自分が自分を安心させるのです。

咲けない日はその場所で、下に、下に伸びましょう」

また「置かれた場所で咲くも咲かないのも、どのように咲くのかも自分次第。

人は自分の生き方を決める自由がある。」



今、この場所で幸せを感じる事が出来なければ、どこにいても幸せを感じることは難しいのではないのでしょうか。

幸せを感じることはその人の能力だと思います。そしてその力は磨く事が出来ます。その為にも、過大評価でも過小評価でもない等身大になりたいけれど、そうでないと自分が見えるときさえも楽しめる自分でありたいと思います。そして、そこに精いっぱい咲いている花（家族・友人・時にすれ違っただけの人）に感謝することが出来たら自分の生き方も素敵になるのかもしれませんが。



コロナで毎日先が見えませんが、日々、今できることに最善を尽くすしかないのです。何か起きたら、その時、またそこで次の最善を尽くすしかないのです。

今、自分が置かれた場所で、精いっぱい自分の花を咲かせること以外に、自分を信じる力—「自信」—をつける方法はないと思うのです。

その為には置かれた場所、巡り合った「ゆりの樹幼稚園」の教育スピリットを自分の中に包み込んで、理解して頂くことが大切です。家庭との教育理念のミスマッチが一番不幸なことから・・・もちろんミスマッチの中から学ぶこともたくさんあるのですが・・・



と同時に一足ることを知ること—も大切です。

コロナで今までの生活様式が変わりました。今までにあったものが当たり前ではなくなりました。

「足るを知る」は老子の「足るを知る者は富む」が由来だとされています。京都の龍安寺の茶室前にある手水鉢は「知足の蹲踞（つくばい）」と呼ばれ「知足」は人間の欲を戒める言葉としてよく引用される言葉としても有名です。

このつくばいには四方に文字が書かれており、中央の水穴を「口」の字として共用し「吾唯足知(われただ足るを知る)」と読むことができます。「身分相応に満足することを知る」「満足する事を知っている人間が本当に豊かな人間で、努力を続ける人間はそれだけで既に目的を果たしている。」という意味だそうです。

「年相応・分相応」に満足、なかなか難しい生き方ではありますが、WITHコロナの時代に巡り合って少しでも、この姿勢が学べたのであるならば、この時代を生きてよかったと思える日がくるのかもしれませんが。

